



# News LETTER

JAPAN SOCIETY OF DISASTER NURSING



日本災害看護学会JSDN／第49号 2025年 6月 1日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報化センター）

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

<http://www.jsdn.gr.jp/> e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

## 第27回年次大会長 ご挨拶

大会長 長田 恵子

2025年9月6日～7日、「災害における看護の汎用性」をテーマに、日本災害看護学会年次大会が東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されます。首都直下地震への備えが進む中、阪神淡路大震災から30年を迎えた節目に、災害対策の進化と看護の役割を再考する重要な機会となります。

これまでの災害対応に教訓を得てきた一方で、新型感染症の発生において医療提供体制の脆弱さが露呈し、災害における人材育成の重要性も浮き彫りとなりました。私たちは今、予測不能な災害や危機への対応力を強化するため、看護が持つ「汎用性」に注目しています。汎用性とは、幅広い状況に応用できる能力を意味し、災害時の看護がどのように多様な場面で機能しうるか、その備えの在り方が問われているものと考えます。

この大会の特別・教育講演では、災害医療・看護のパイオニアに加え、AI・防災DXや社会工学システムの専門家、気象学や地球環境の安全管理における専門家らによる幅広い視点から最新の知見が提供されます。シンポジウムでは、2024年の能登半島地震からの災害対応の振り返りとこれからについて考えるとともに、看護の知識とエビデンスに基づいた柔軟な対応力を災害のあらゆる場面にどう活かすかについて、「つながる」「心を添わせる」「持続する」という視点で議論を深めていきます。災害看護のさらなる充実を目指し、これまでの経験を踏まえた準備と未来への備え方について、参加者の皆様と意見交換ができるることを願っています。

会場は、日本で初めてオリンピックが開かれた日本の復興を象徴した地でもあります。新宿や渋谷にも近く、周辺には明治神宮や代々木公園といった緑豊かな散策スポットが広がっています。緑と光に囲まれた神宮の杜の傍で、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

## 第27回年次大会市民公開講座のご案内

社会貢献・広報委員会 委員 伊東 愛

日本や海外で大規模な山林火災が相次いでいます。皆さんは消防器の使い方をご存知ですか？地震や水害、大規模火災などの災害が起こった際に避難する場所はご存

知ですか？お住まいの町・地域に、隣近所や自治会の人たち同士で災害時に助け合う自主防災組織というものはありますか？地域で避難訓練は行われていますか？

今からおよそ三百余年前の享保3年、町奉行であった大岡越前守忠相の唱導で、江戸の町を火災から守るために、町人の消防組織「いろは四十八組」の町火消が江戸に誕生しました。第27回年次大会市民公開講座では「江戸～東京の防災のまちづくり」をテーマに、「いろは四十八組」の町火消の流れをくむ江戸消防記念会の事務局長である須藤晃二氏を講師に迎え、首都直下地震が懸念される昨今に市民一人ひとりが災害に備えられるよう、東京の防災の歴史や防災のしくみについてお話をいただきます。歴史や先達の経験から学び、いざという時に備え、防災の意識が少しでも高まる機会になればと思っています。

市民公開講座に参加して、ご自身や家族、地域の方々の命を守り、助けとなる災害時の活動や備えにつながる知識を身につけませんか？きっと市民公開講座で聞いたことが今日からの防災、地域の防災に役立つと思います。多くの方の参加をお待ちしております。

（社）日本災害看護学会/第27回年次大会共催  
市民公開講座  
**江戸～東京の防災のまちづくり**

日時：令和7年9月7日（日）午後13:20～14:20  
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
カルチャーハウス 大ホール  
講師：須藤晃二先生（江戸消防記念会 事務局長）

今からおよそ三百余年前の享保3年、大岡越前守忠相の指導でいろは四十八組の町火消が江戸に誕生しました。首都直下地震が想定される昨今、皆さんが災害に備えるために、丸太の防炎の壁や火災対策の仕組みを理解し、災害時の一活動者となるための知識を身についてませんか？

一般社団法人 日本災害看護学会 第27回年次大会  
主催：日本災害看護学会 第27回年次大会  
実行委員会（株）セイタ企画  
TEL: 03-6246-9009 E-mail: jdn27@intergroup.co.jp

## Topics 災害看護！ 「防災学術連携体」における本学会の役割

副理事長 酒井 明子

防災学術連携体は2016年1月に結成され、2021年4月に一般社団法人として発足した。目的は、自然災害への防災減災・災害復興を対象に、より広い分野の学会の参画を得ながら、研究成果を災害軽減に役立てるためである。現在63学協会が参画している。防災学術連携体の活動は多岐に渡る。近年の災害に関する情報提供、学

術フォーラム・公開シンポジウム、Web研究会、声明・報告、国際協力・学協会連携、日本学術会議の防災関連委員会との連携、行政組織との連携などである。学問の世界は専門分化がすすみ、重要な議論はそれぞれの分野内で行われがちであるが、防災学術連携体は、異なる分野との情報共有や平常時の交流を活発化させ、総合的かつ持続的に取り組んでいることに特徴がある。

防災減災・災害復興の推進には、地震、津波、火山、活断層、地球観測、気象、地盤、耐震工学、耐風工学、機械制御工学、水工学、火災、防災計画、防災教育、救急医療、看護、環境衛生、都市計画、農山漁村計画、森林、海洋、地理、経済、情報、エネルギー、歴史、行政など多くの研究分野が関係する。日本災害看護学会は、人間の尊厳と権利、世界環境を尊重し、他学問と共に社会のためになる新たな知識を生み出し、社会から信頼を得る専門職業人としての使命を果たす必要があり、他学問と共に重要な役割を担っている。日本災害看護学会は、幹事会の一員として連携体の企画運営に関わりながら、Web研究会の自主企画「COVID-19災害と共生への道」、「阪神・淡路大震災30年、社会と科学の新たな関係」、「関東大震災100年と防災減災科学」「防災減災を担う人材をどう育成するか」「令和6年能登半島地震」などに参加し、議論を深めている。

## Series委員会活動! 「まちの減災ナース指導者育成委員会」

まちの減災ナース指導者育成委員会 委員長 松岡 千代

まちの減災ナース指導者育成委員会は、主に「まちの減災ナース指導者®（以下、指導者）」の育成研修の実施と評価を行い、認証制度委員会における認証のための資料作成などの業務を行っています。これに加えて指導者のフォローアップ研修や年次大会での委員会企画を行っています。

まちの減災ナース指導者とは、災害時に備えて、自身の生活圏内の地域、学校、職場等における減災活動（研修会や訓練など）を行い、看護の視点を踏まえた災害知識や技術の普及を行う「まちの減災ナース」を育成する、地域の減災活動のリーダーとなる看護職者です。指導者の育成は7年目を迎え、現在は6期生・短期1期生の認証を受けて、その人数はようやく100名を超えたところであり、まだまだ知名度が低い状況です。しかし先輩指導者からの報告では、地域の特徴や課題をふまえた活動を行っていることが評価されており、地域の減災・防災活動の要となって欠かせない存在になっていることが伺えます。今後の大規模災害の発生をみすえて、日頃から地域密着型で減災・防災活動を行うまちの減災ナース指導者の育成はとても重要であると考えています。

育成研修は、標準研修（5日間）と短期研修（1.5日間）の2種類があり、それぞれの受講要件は、学会ホームページに掲載される募集要項をご確認ください。2025年度の標準研修の日程は、11月8・9日（オンライン）、2月21・22日（オンライン）、5月9日（ハイブリッド）を予定しています。育成研修では、地域減災・防災に關

する講義やグループワーク、先輩指導者との交流も企画しています。地域での減災・防災活動に关心があり、地元で仲間を作つて活動をしていきたいという希望をもつておられる方は、是非応募の検討をお願いいたします。

## Series委員会活動!「認証制度委員会」

認証制度委員会 委員長 大村 佳代子

認証制度委員会は、「学会認証まちの減災ナース指導者」育成委員会と対で存在し、学会が認証する指導者育成の質を制度から担保すると共にサポートすることをねらいとしています。その役割として「まちの減災ナース指導者®」の認定・更新認定に関する業務を担い、委員は理事・代議員を含む5名で構成されています。

「まちの減災ナース指導者®」は、地元密着型の減災に関する研修会等で看護の知識や技術の普及を行う「まちの減災ナース」を育成する看護職です。「まちの減災ナース」は地元住民として自主防災組織等で力を發揮し、発災時ののみならず、その後のまちの復興にも大きな役割を果たします。

今年はまちの減災ナース指導者®1～2期生が5年目更新を行います。1期生の皆様は最初だったこともあり、認定証が届くまで時間がかかりました。また、追い打ちをかけるように2019年12月からCOVID-19が流行。イベントの開催が難しくなるなど、1期生に限らず様々な活動に困難がつきまとう期間がありました。このような逆風の中でも、住民の減災のために、苦労して活動してこられた指導者の皆様に最敬礼し、委員会を代表して厚く御礼申し上げます。

委員会では、全員の皆様に引き続き活動していただきたいという願いから、委員全員で知恵を絞り、ポイントが足りない場合の救済策を検討しました。これからもまちの減災ナース指導者®の皆様がいきいきと活躍できるよう、陰から支えて参りたいと思います。

## 編集後記

国内だけではなく海外でも多くの災害看護を必要とする事象が発生している昨今、今回のニュースレターでは災害看護の活動をより市民へ還元していくための取組みについて多く取り上げております。様々な分野で活躍する看護職が、災害の急性期にとどまらず地域住民と共に平時の取組みからアフターケアを進める「まちの減災ナース指導者®」、これまでの看護の知見を関連領域の学際的諸団体と連携して政策形成に取り組む防災学術連携体など、生活者を対象とする看護ならではの幅広い視点を持った情報が満載です。これらを含めた知見をより多くの看護職と共有すべく、9月6日～7日に東京（代々木）で第27回年次大会が開催されます。年次大会では社会貢献・広報委員会として恒例の市民公開講座を今回も開催いたします。とても多くの収穫がある2日間になると思いますので是非奮ってご参加ください。心よりお待ちしております。

（社会貢献・広報委員会 委員 川野 和也）